

Alcoutim

について



写真: Odiana

Alcoutim

アルクーティムには、何世紀にもわたって国境を守ってきた城壁はもうないが、アルガルヴェの山間の町の静かな雰囲気は残っている。

グアディアナ川のほとりにあるアルクーティムの町の歴史は、潮の満ち引きが感じられる場所に位置していたことと密接に結びついている。しかし古来より、隣国スペインの町サンルーカル・デル・グアディアナとの国境に位置する戦略的な立地であったため、支援施設や防衛施設を建設する必要があり、いくつかの遺跡は観光名所となっている。

数分歩くと、ミゼリコルディア教会 (Igreja da Misericórdia) や考古学博物館 (Núcleo Museológico de Arqueologia) のある城など、何世紀も前に建てられた家やモニュメントを発見することができる。

アルクーティムでは、聖アントニオ庵やアルクーティム伯爵邸がある川岸に降りて、テラスで冷たい飲み物を飲みながら、小さなマリーナに停泊している漁船やヨットを眺めながら、静かな時間を過ごすのがお勧めです。



国境の町であるアルクエティムには、密入国者の話や、密かに通っていた古い道が、自然や風景、地元の風習を観察するための小道として新たな命を吹き込まれた話がたくさんあります。3月に開催される密入国フェスティバル（Festival do Contrabando）や、年間を通して開催されるウォーカーズ・ミーティング（Caminheiros）は、アルクエティムの秘密や謎を知る特別な機会です。ロングウォーキングを楽しむなら、川の流れに沿って歩くグアディアナ街道（Rota do Guadiana）や、アルガルヴェの内陸部を東西に横断するアルガルヴェ街道（Via Algarviana）の起点にアルクエティムを選ぶとよいでしょう。

特にスペイン内戦（1936年～1939年）とその後の数年間は、密輸が多くの子供の生計を支えていた。産物は時代によって、また必要に応じて様々であった。ポルトガルからはコーヒー、砂糖、卵、米、石鹼、小麦粉、パン、イチジク、羊毛、タバコが、隣国からは織物、石鹼、香水、コニャック、アーモンドの実がもたらされたと言われている。



9月初旬に開催されるアルクーティム・フェスティバル (Festas de Alcoutim) や、夏の間、毎週水曜日にコンサートやエンターテインメントが開催される「アルクーティム・ライブ」 (Alcoutim Com Vida) プログラムなど、年間を通して、アルクーティムを訪れ、地元の文化やアイデンティティにとって最も重要なお祭りを間近で体験する価値のある時期があります。8月15日に町を訪れる人は、ポルトガル、スペイン、外国の船がグアディアナ川の水上で聖母像の行進をする「カルメル山の聖母の川の行進 (Procissão Fluvial da Nossa Senhora do Carmo)」を見ることができる。

アルクーティムの魅力のひとつは川で、ボート・ツアーに参加したり、海遊びの練習をしたり、グアディアナ川の上を飛んで有名な国境越えの滑り台で対岸に行くこともできる。

アルガルヴェ北東部の田園風景の中にあるペゴ・フンド・リバー・ビーチは、アルガルヴェの内陸部にあり、川が流れているため、余暇を過ごすには絶好の場所である。



名物料理としては、この地方で飼育されている黒豚の特製料理、川魚料理、ジビエ料理がおすすめだ。薪窯で焼く伝統的なパンは、ミガス（あらゆる具材を入れた揚げパン）、ガスパチョ、アソルダ（パンのスープ）などの郷土料理のベースとなっている。デザートにはノガドをどうぞ。アラブ発祥のお菓子で、伝統的にはドライフルーツを臼で叩いた後、煮詰めた蜂蜜につけて作る。小麦粉の生地から作ることもある。

また、グレイロス・ド・リオ（Guerreiros do Rio）村にある河川博物館（Museo do Rio）も訪れる価値がある。グアディアナ川と川沿いの住民にまつわる伝統、技術、工芸品、思い出を知るには絶好の場所だ。ペレイロ村の近く、ザンプジョ山にあるサンタ・ジュスタ博物館（Núcleo Museológico de Santa Justa）は、1950年代後半の小学校を再現したもので、自治体の教師全員へのオマージュである。